心身障害学研究　Bull. Spec. Educ.
9(2)：21－30，1985

聴覚障害児の読みに及ぼす文脈の影響（その6）

岡　田　　明

2文を接続詞で連結させる時，主として第2文が省略された時とそうでない時の文章を作成し省略の文章完成に及ぼす影響をクローズ法により調べることを研究目的とした。両文の差はなかったが，G-P分析の結果，P群においては両群間に差はうかがえなかったが，G群の方では，かなりの差が出た。省略のない文の方が成績がよかった。

キーワード：クローズ法　文脈　G-P分析　読み

1．目　的

前回までと同様，本報告もクローズ法を利用して聴覚障害児の読みに及ぼす文脈の影響を調べる。

クローズ法は読み手の理解度や読み易さを測定するための測度である。文章には多くの単語が配列されている。その場合，前出のことばの傾性や遷移確率などをもとにして，次に出てくることばを推測し，適切なことばを産出することが，かなりのクローズ単語を産み出すことになる。ゲシュタルト心理学の立場からは閉合の法則が適用される。このようにクローズ法は，原文を部分的に削除しそれを読み手に与え，読み手に削除部分を適切な文字や単語で補完させるものである。これらは，Taylor, W. L. の考え方を要約したものであるが，わたくしは文脈的制約には遡及的な効果も働くものと考えている。

Robinson, H. A. によると，読書遅滞児は照応語 anaphora の理解に劣る。安井稔によると，照応語には，代名詞などの代用形，ののしりことば，epithet，限定叙述（"Johnson spoke to the Secretary of State for an hour before the politicians completed the plan" の the plan のようなもの），ゼロ形式（John and Sue talked about getting married），そのほか likewise などが含まれる。

照応語の困難性は，先行詞の探索のほかにある種の省略にあると考える。同じ語句を相次いで文首などに畳用するときなどはその語句を代名詞などで置換させ，"省略" させている。この省略が遅滞児には学習困難になると考えられる。ここでは，二文を接続詞で連結させるとき，主として第2文が "省略" された時とそうでない時の文章を作成し，省略の文章完成に及ぼす影響をクローズ法により調べることを研究の目的とする。

2．方　法

被験者は関東地方ろう学校中等部生徒20人である。平均聴力損失は90 dB 以上。知能は担任教師により平均以上と認められたものである。テストはクローズ法により実施した。テスト時間は60分。教示は次のとおりである。「文と文をつなぐことば（接続詞）を□□□□の中に一つだけいれなさい。」問題の例を次に示す。

文（ぶん）と文をつなぐことば（接続詞（せつぞくし））を□□□□のなかに一つだけいれなさい。

○省略のある文例

- ポチは　まがぬけた犬で，みこちゃんが　かわいがっても，なついてきません。□□□□ポチが　すきです。
- おたがいのからだを　ごしごし　こすりあいました。□□□□なかなか　あたたまりません。
- おにいさんは，おとうとの　ほっぺたを　なぐりつけました。□□□□なきませんでした　。
- 雪がつもりました。□□□□手紙（てがみ）を　くばってあるいています。
- わたしは　わらを　たくさんしいてやった。□□□□ねようとしなかった。

- 子やぎは　かけて　いきました。□母やぎの　おっぱいに　くびを　のばしました。
- 先生は　かめの　おはなしをしました。□ゆだんをしては　いけない　というおせっきょうをしました。
- おかあさんがにが　しかりました。□ふふくそうに　あわを　たてました。
- ひつじの　毛は　けおりものに　つかわれます。□わたのように　あたたかです。
- 消防夫は　火事場へ　いそぎました。□水を　かけました。
- にわとりが　先に　いたのだろうか。□たまごが　先に　あったのだろうか。
- あしたは　雨が　ふります。□雪かも知れません。
- さとうきびは　気温の　高い　地方で　作られます。□てんさいは，ひくい地方で　作られています。
- おとうさんが　死んだのだろうか。□おかあさんなのだろうか。
- あした，ゆき子は　テレビを　みようと　思っています。□えいがにするかも知れません。
- 二郎は　なまけていた。□母に　うなぎを　たべさせることが　できなかった。
- ふろのない　家が　たくさん　ある。□せんとうがある。
- やす子の　家は　やけてしまった。□なにもなくなった。
- あきらは　いっしょうけんめい　勉強した。□ごうかくした。
- やすおは　お金を　おとした。□あるいて　家に　かえった。
- あき子は　学校を　やめて　仕事に　でかけました。□びんぼうだった　からです。
- 休みが　こなければ　スケートにいけません。□学校が　あるからです。
- ひつじの　毛は　ながくて　やわらかです。□けおりものに　つかわれます。
- じゃがいもは　土の中で　くきが　ふくらむのです。□くきを　たべているのです。
- そうり大臣に　なるのは　むずかしい。□一人しか　いないからです。
- あかは　まがぬけた犬で　あこちゃんが　かわいがっても　なついてきません。□あこちゃんは　あかが　すきです。
- 子どもたちは　おたがいの　からだを　ごしごし　こすりあいました。□からだは　なかなか　あたたまりません。
- おおきい子は　ちいさい子の　ほっぺたを　なぐりつけました。□ちいさい子は　なきませんでした。
- 雪が　つもりました。□　ゆうびんやさんは，　手紙を　くばって　あるいています。
- わたしは　わらを　たくさん　しいてやった。□あかは　はいって　ねようとしなかった。

○省略のない文

- 子馬は　かけていきました。□子馬は母馬の　おっぱいに　くびを　のばしました。
- 先生は　うさぎの　おはなしをしました。□先生は　ゆだんを　してはいけないという　おせっきょうをしました。
- おかあさんがにが　しかりました。□子がには　ふふくそうに　あわを　たてました。
- ひつじの毛は　けおりものに　つかわれます。□ひつじの毛は　わたのようにあたたかです。
- 消防夫は　火事場へ　いそぎました。□消防夫は　水をかけました。
- にわとりが　先に　いたのだろうか。□にわとりよりも　たまごが　先にあったのだろうか。
- あしたは　雨が　ふります。□雨でなく，雪に　なるかも　知れません。
- さとうきびは　気温の　高い　地方で，作られます。□てんさいは　気温の　ひくい地方で　作られています。
- おばあさんが　死んだのだろうか。□おばあさんでなく，おじいさんが　死んだのだろうか。
- あした，はな子は　テレビを　みようと　思っています。□はな子は　えいがに　いくかも知れません。
- 一郎は　なまけていた。□一郎は　母にうなぎを　たべさせる　ことが　できなかった。

- ふろの ない 家が たくさん ある。□町には せんとうが ある。
- やす子の 家は やけてしまった。□やす子の 家には なにも なくなってしまった。
- まさおは いっしょうけんめい 勉強した。□まさおは ごうかくした。
- やすおは お金を おとした。□やすおは あるいて 家に かえった。
- はな子は 学校を やめて 仕事に でかけました。□はな子の 家は びんぼうだったからです。
- 休みが こなければ スキーには いけません。□それまでは 学校が あるからです。
- ひつじの毛は ながくて やわらかです。□ひつじの毛は けおりものに つかわれます。
- じゃがいもは 土の中で くきが ふくらむのです。□わたしたちが たべているのは，くきが ふくらんだ ところです。
- そうり大臣に なるのは むずかしい。□そうり大臣は 一人しか いないからです。

評価法は 次のとおりである。完全正答が2点，同義語が1点，意味の全然通じないものを0点として評価した。

接続詞は，①続きであることをあらわす接続詞“そして”，“それから”，②くいちがっていることをあらわす接続詞“だけど”，“しかし”，③あれかこれかのどちらかであることをあらわす接続詞“それとも”，“あるいは”，④結果であることをあらわす接続詞“それで”，“だから”，⑤理由であることをあらわす接続詞“というのは”，“なぜなら”，などを50題とりあげた。

省略のある文を25題，ない文を25題構成した。それらは ランダムに配置した。

3．結果と考察

20人の50題全体についての平均得点は，38.9。標準偏差は7.6であった。1題あたりの20人についての平均得点等は，M＝15.5，S. D. ＝10.3であった（表1参照）。

省略のある文 M＝15.4，S. D. ＝10.1，省略のない文 M＝15.7，S. D. ＝11.2であった。差ははっきりしていない。

次にG-P分析を実施した。全得点の上位5人をG群，下位5人をP群とした。P群においては，省略のある文とない文のあいだにはっきりとした差がうかがえない（表2参照）。G群の方では，かなりの差がうかがわれ，省略のない文の方が成績がよい。もちろんG群の方がP群より成績がよい（表3参照）。

全体的にみて，省略のある文とない文とであまり差がみられなかった。G-P分析の結果は，P群ではあまり差がみられないのに，G群では，差の出る傾向がみられた。ろう学校のP群では，文章全体の文脈の制約を十分に利用するよりも，クローズすべき箇所の前後にある単語に反応する傾向が強いのに対して，G群では，文章全体の制約をより十分に活用し，その場合に，「省略のない文」からより十分な情報をひき出し文章全体の文脈の制約を利用しているのではないだろうか。

かって，筆者らが，クローズ法で原文と組み替え文に対する健聴児と聴覚障害児のクローズ反応を検討したときにも同じような反応が得られているのである。そこでの作業仮説は，次のようなものであった。「先行の文や後行の文はクローズの完成のとき，意味的な文脈や統語的文脈を与えることがあるので，自然な順序で並んでいるNAT文（原文）は，ランダムに並べ換えられたMOD文（組み替え文）よりも正答のクローズ反応が多くなるであろう。しかし，聴覚障害児が文脈を十分に利用できないならば，NAT文とMOD文への反応の間に差は認められないであろう。」

安井稔によると，anaphoric（照応的）は，Dougherty (1968), Akmajian (1968), Edes (1968) などの用語である。前方照応だけでなく，後方照応の場合も含む。指示的（referential），同一指示的（coreferential），相互指示的（reciprocal）ともいう。照応語（anaphor, pL. anaphora）と，その先行詞（antecedent）とから成る組を含む表現形式を，照応表現（anaphoric expression）という。

(1) 照応語の種類。(a) 代名詞（pronoun），代

Table 1　接続詞のクローズ成績

注：表中の数字は，評価点

正答 / 氏名	だけど	しかし	けれども	それでも	だ　が	そして	それから	すると	そして	それから	それとも	あるいは	いっぽう
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
K.	でも　1	しかし　2	けれども2	そこで　0	でも　1	それから1	そのとき1	そのとき1	それは　0	それから2	それとも2	それとも1	しかし　1
H.	でも　1	たが　1	しかし　1	そこで　0	でも　1	そして　2	そのうえ1	そのとき1	それは　0	すぐ　0	それとも2	それとも1	しかし　1
I.	でも　1	でも　1	でも　1	それなのに1	しかし　1	すると　0	そして　1	すると　2	それで　1	そして　1	それとも2	または　1	が　1
K.	だから　0	でも　1	つまり　0	そして　0	つまり　0	すると　0	そしたら1	すると　2	だから　0	そして　1	それとも2	けれど　1	けれども1
E.	みこちゃんは0	なぜ　0	ところが1	だが　1	しかし　1	そして　2	ところが0	けれども0	これは　0	そして　1	それとも2	また　0	そのうえ0
K.	だから　0	でも　1	けれども2	また　0	だけど　1	そして　2	けれど　0	そのとき1	だから　0	そして　1	でも　1	それから0	また　1
M.	けれども1	でも　1	しかし　1	すると　0	けれども1	そして　2	それから2	そして　0	けれども0	すぐ　0	それとも2	または　1	それから1
I.	でも　1	まだ　0	すると　0	けれど　1	そして　0	すると　0	そのときに1	そして　0	これは　0	そして　1	それとも2	または　1	または　0
K.	でも　1	しかし　2	だから　0	でも　1	しかし　1	それで　1	それから2	だから　1	それで　1	しかし　0	また　0	もし　0	また　1
T.	みこちゃんは0	からだは0	おとうとは0	ゆうびんやさんは0	あかは　0	子やぎは0	先生は　0	子がには0	ひつじの毛0	消防夫は0	にはとりよりも0	雨ではなく0	それから1
F.	この　0	だけど　1	けれども2	けれども1	けれども1	その　0	そしたら1	その上　0	まるで　1	すぐ　0	その上　0	その上　0	けれども1
A.	でも　1	けれども1	それでも1	それでも2	けれど　1	そして　2	それで　1	それで　1	それで　1	それから2	それとも2	あるいは2	けれども1
T.	みこちゃんは0	けれども1	でも　1	それでも2	だのに　1	そして　2	その時に1	そしたら1	だから　0	それに　0	それとも2	けれど　1	でも　1
I.	たがら　0	けれども1	しかし　1	たがら　0	しかし　1	すぐ　0	しかし　0	けれども0	しかし　0	まだ　0	その他　0	が　1	しかし　1
H.	でも　1	そうしたら0	ぜんぜん0	だから　0	そして　0	それで　1	それで　1	そして　0	これは　0	次に　1	それとも2	けれど　1	ほかには1
T.	たがら　0	けれども1	しかし　1	ゆうびんやさんは0	しかし　1	そして　2	たがら　0	子がには0	とても　0	そして　1	それとも2	それとも1	それから1
N.	かわいい0	からだが0	おとうとは0	ゆうびん局は0	わらで　0	子やぎは0	先生は　0	お母さんは0	けいとは0	防火　0	にわとりは0	あした　0	気温　0
S.	でも　1	しかし　2	でも　1	でも　1	しかし　1	そして　2	その上　1	だから　1	だから　0	次に　1	それとも2	又は　1	その上　0
I.	でも　1	しかし　2	だか　1	でも　1	だから　0	そして　2	その時　1	だから　1	毛は　0	急いて　0	それとも2	または　1	または　0
Y.	でも　1	けれども1	けれども2	でも　1	のに　0	そして　2	そして　1	すると　2	それは　0	すぐ　0	それとも2	もしかしたら1	そして　1

正答 / 氏名	それとも	あるいは	だから	そのため	それで	そのため	それで	というのは	なぜなら	だから	だから	なぜなら	だけど
	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
K.	それとも 2	それに 0	だから 2	だが 1	それに 0	だから 1	けれども 1	それは 0	それは 0	それに 1	それは 0	それは 0	けれども 1
H.	それとも 2	それとも 1	それで 1	そのかわりに 1	そのうえ 1	それで 1	すぐ 0	それは 0	それは 0	それで 1	それとも 0	たった 0	でも 1
I.	それとも 2	もしかしたら 1	だから 2	だから 1	それで 2	だから 1	だから 1	それは 0	それは 0	だから 2	だから 2	それは 0	でも 1
K.	だから 0	けれども 1	だから 2	けれど 1	そして 1	そしたら 1	だから 1	つまり 0	すると 0	だから 2	だから 2	つまり 1	そのうえ 0
E.	それとも 2	まさか 0	だから 2	さあ 0	もう 1	そして 1	ところが 1	そして 0	どうしても 1	これは 0	きっと 0	だから 0	もう 0
K.	それから 1	それから 1	だから 2	でも 1	けれど 0	だから 1	だから 1	わけは 0	わけは 0	だから 2	だから 2	でも 0	だから 0
M.	それとも 2	または 1	すると 0	けれども 1	だから 1	すると 0	けれども 1	それは 0	それは 0	そこに 0	そして 1	それは 0	だから 0
I.	それとも 2	でも 1	だから 2	だから 1	だから 1	そして 1	そして 1	それは 0	でも 0	だから 2	だから 2	でも 0	けれど 1
K.	また 0	もし 0	だから 2	それも 0	とても 0	でも 0	しかし 1	そのわけ 0	そのわけ 0	だから 2	それから 0	そのわけ 0	でも 1
T.	それとも 2	でも 1	そしたら 1	近くに 0	そしたら 1	だから 1	そして 1	あき子は 0	毎日 0	だから 2	じゃがいもは 0	そうり大臣は 0	そして 0
F.	その上 1	その上 0	だから 2	だから 1	だから 1	そしたら 1	だけど 1	だから 0	だから 0	そして 1	たくさん 0	だから 0	だから 0
A.	それとも 2	または 1	そのため 1	それで 1	そのため 1	だから 1	だから 1	それは 0	それは 0	それで 1	それで 1	それは 0	それでも 1
T.	それとも 2	もしも 0	だから 2	でも 1	けれど 0	だから 1	そのまま 0	それは 0	けれど 0	だから 2	だから 2	それは 0	けれど 1
I.	それとも 2	また 1	それで 1	しかし 1	それで 2	たがら 1	しかし 1	だから 0	0	しかし 0	たがら 2	それとも 0	たがら 0
H.	それとも 2	または 1	だから 2	それから 0	すると 1	そうしたら 1	また 0	理由は 0	それは 0	または 0	それから 0	これは 0	でも 1
T.	それとも 2	それとも 1	二郎は 0	たがら 1	もう 1	たがら 1	残念そうに 0	それは 0	それまでは 1	ひつじの毛は 0	私達は 0	そうり大臣は 0	たがら 0
N.	それとも 2	げれと 1	だから 2	げれと 1	だから 1	だから 1	げれと 1	だから 0	げれと 0	けいとは 0	土の中で 0	げれと 1	げれと 1
S.	それとも 2	それとも 1	そのため 1	又は 0	そのため 1	おがけで 0	知らないうちに 0	その理由は 0	厳しい 0	だから 2	それを 0	みんなの中で 0	でも 1
I.	または 1	それとも 1	そのため 1	その代りに 1	そのため 1	だから 1	そのまま 0	そのわけは 0	それは 0	だから 2	その 0	それは 0	でも 1
Y.	それとも 2	もしかしたら 1	ので 0	だから 1	それで 2	すると 0	もって 0	なぜなら 1	なぜなら 2	それに 1	その 0	なぜなら 2	でも 1

正答 / 氏名	しかし	けれど	それでも	だ が	そして	それから	すると	そして	それから	それとも	あるいは	いっぽう	それとも
	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39
K.	しかし 2	でも 1	そこに 1	だが 2	そこで 1	そのとき 1	それで 1	それは 0	そこで 1	それとも 2	しかし 1	ぎゃくに 1	または 1
H.	しかし 2	けれども 1	それなのに 1	でも 1	そして 2	また 1	それで 1	または 0	そして 1	それとも 2	それとも 1	しかし 1	それとも 2
I.	でも 1	それなのに 1	それなのに 1	それなのに 1	すると 0	そして 1	だから 1	それで 0	そして 1	それとも 2	もしかしたら 1	でも 1	それとも 2
K.	すると 0	つまり 0	そして 1	つまり 0	そしたら 0	すると 0	すると 2	だから 0	そして 1	それとも 2	でも 1	つまり 0	だから 0
E.	でも 1	ところが 1	そして 1	けれども 1	そして 2	しかし 0	そして 1	これは 0	そして 1	それとも 2	とか 0	これは 0	それとも 2
K.	けれど 1	でも 1	だけど 1	だから 1	そして 2	だから 1	でも 0	だから 0	そして 1	でも 1	それから 1	だから 0	でも 1
M.	けれども 1	そして 1	すると 0	けれども 1	そして 2	そのほかに 1	すると 2	けれども 0	すぐ 0	それとも 2	たぶん 0	それから 1	それとも 2
I.	でも 1	そしたら 1	だから 0	そしたら 1	すると 0	けれど 0	すると 2	でも 0	そして 1	それとも 2	でも 1	けれど 1	または 1
K.	しかし 2	だから 0	けれども 1	それから 1	それで 0	それで 1	しかし 0	それで 0	しかし 0	また 1	もし 0	それとも 0	また 0
T.	しかし 2	そしたら 1	すると 0	そして 0	そしたら 0	そして 1	そしたら 1	だから 0	すぐに 0	それとも 2	それとも 1	または 0	それとも 2
F.	だけど 1	だけど 1	けれども 1	だけど 1	そして 2	だから 1	だけど 0	そして 1	その上 0	その上 0	その上 0	けれども 1	その上 0
A.	それでも 1	それでも 1	それでも 1	それでも 1	そして 2	そして 1	それで 1	それは 0	そして 1	それとも 2	あるいは 2	けれども 1	それとも 2
T.	でも 1	それに 0	それに 0	けれど 1	そして 2	その時に 1	そしたら 1	だから 0	そして 1	それとも 2	けれど 1	でも 1	けれど 0
I.	しかし 2	しかし 1	たがら 0	けれども 1	また 1	しかし 0	けれども 0	しかし 0	けれども 0	それとも 2	しかし 1	けれども 1	それとも 2
H.	そうしたら 0	すると 1	だから 0	そして 0	それで 0	それで 1	そして 1	または 0	次に 1	それとも 2	または 1	ほかには 1	それとも 2
T.	けれども 1	しかし 1	たがら 0	でも 1	そして 2	たがら 1	たがら 1	とても 0	そして 1	それとも 2	それとも 1	それから 1	それとも 2
N.	子どもたちは 0	ほっぺたは 0	そうしたら 0	わたしは 0	そのとき 1	むかし 0	だから 1	けいとは 0	そのとき 1	それとも 2	だから 0	りんごは 0	それとも 2
S.	しかし 2	でも 1	しかし 1	でも 1	そして 2	そして 1	だから 1	だから 0	そして 1	あるいは 1	又は 1	反対に 1	又は 1
I.	だか 1	しかし 1	でも 1	だから 1	そして 2	その時 1	だから 1	だから 0	そして 1	それとも 2	もし 0	または 0	それとも 2
Y.	けれども 1	けれども 1	それでも 1	しかし 1	そして 2	すると 0	すると 2	その 0	そして 1	それとも	もしかしたら 1	して 0	それとも 2

正答 / 氏名	あるいは	だから	そのため	それで	そのため	それで	というのは	なぜなら	だから	だから	なぜなら	総点	平均
	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50		
K.	だが 1	だから 2	でも 1	だから 1	たがら 1	しかし 1	それは 0	それは 0	だから 2	そこは 0	それは 0	48	0.96
H.	でも 1	それで 1	しかし 1	そのうえ 0	それで 1	でも 1	それは 0	しかし 0	だから 2	それで 1	そのうえ 0	45	0.9
I.	もしかしたら 1	だから 2	だから 1	それで 2	だから 1	だから 1	それは 0	それは 0	そして 1	だから 2	それは 0	53	1.06
K.	けれども 1	だから 2	けれども 1	そして 1	そしたら 1	そして 1	そのうえ 0	だから 0	だから 2	だから 2	つまり 1	40	0.8
E.	でも 1	だから 2	その 0	もう 1	やっと 0	しかし 1	ところが 0	だから 0	それは 0	だから 2	だから 0	35	0.7
K.	それから 1	だから 2	そのほか 0	でも 0	だから 1	だから 1	だから 0	でも 0	けれど 0	だから 2	でも 0	39	0.78
M.	たぶん 0	すると 0	けれども 1	すると 0	だから 1	けれども 1	それは 0	休みに 0	けれども 0	今 0	それは 0	35	0.7
I.	でも 1	だから 2	だから 1	だから 1	すると 0	だから 1	でも 0	だから 0	または 0	だから 2	でも 0	40	0.8
K.	もし 0	しかし 0	それとも 0	しかし 0	でも 0	しかし 1	そのわけ 0	そのわけ 0	もし 0	それとも 0	だから 0	24	0.48
T.	それとも 1	そしたら 1	だから 1	そしたら 1	だから 1	そして 1	だから 0	だから 0	しかし 0	だから 2	だから 0	28	0.56
F.	その上 1	だから 2	だから 1	だから 1	そしたら 1	けれども 1	だから 0	だから 0	だけど 0	だから 2	けれども 0	34	0.68
A.	でも 1	そのため 1	それで 1	そのため 1	それで 1	だから 1	それは 0	それは 0	それで 1	ところで 1	それは 0	53	1.06
T.	もしも 0	だから 2	けれど 1	でも 0	だから 1	けれど 1	でも 0	でも 0	だから 2	けれど 0	でも 0	42	0.84
I.	たがら 0	しかし 0	たがら 1	けれどれ 0	けれど 0	しかし 1	たがら 0	しかし 0	しかし 0	しかし 0	または 0	29	0.58
K.	または 1	だから 2	ほかに 0	すると 0	そうしたら 1	また 0	理由は 0	それで 0	または 0	そして 1	だから 0	31	0.62
T.	それとも 1	だから 2	たがら 1	たがら 1	たがら 1	そして 1	それは 0	それは 0	たがら 2	そして 1	それは 0	41	0.82
N.	それとも 1	だから 2	しかし 1	げれと 0	そして 1	そうしたら 1	だから 0	げれと 0	けいとは 0	じゃかいも 0	だから 0	23	0.46
S.	それとも 1	だから 2	しかし 1	そのため 1	おがけで 0	でも 1	理由は 0	休みのなし 0	だから 2	今 0	理由は 0	44	0.88
I.	または 1	そのため 1	その代りに 1	だから 1	だから 1	しかし 1	それは 0	それは 0	だから 2	それは 0	だから 0	42	0.84
Y.	もしかしたら 1	だから 2	だから 1	だから 1	すると 0	しらない 0	それは 0	なぜなら 2	しかも 1	その中で 0	なぜなら 2	51	1.02

Table 2　P群の成績

	省略のある文	省略のない文
M	13.0	14.0
S. D.	5.2	6.1

Table 3　G群の成績

	省略のある文	省略のない文
M	24.8	29.8
S. D.	3.7	2.9

動詞（pro-verb），代不定詞（pro-infinitive）などの代用形（pro-form）。(b) ののしりことば (epithet) (c) 限定叙述 (definite description). (d) ゼロ形式（zero-form）：John and Sue talked about Λ getting married.（ジョンとスーは2人の結婚について相談した）。(e) そのほか，the same（thing），likewise など。

(2) 先行詞の種類. (a) 単一の先行詞（single antecedent）。先行詞が単一の節点にまとめられているもの：I have a son. He is seventeen years old. (b) 分離先行詞（split antecedent）。先行詞が単一の節点のもとにまとめられていない場合で，先行詞以外の要素の介在によって先行詞が二つの部分に分離しているとき，照応語は複数形の代名詞　they, them, their, both などである：John told Sue that they would get married in the fall.（ジョンはスーに，ぼくたちは秋に結婚しようと言った）。(c) 先行詞が単一の節点にまとめられていないが，(b) のように分離しているのでもない場合。照応語は，文全体（または一部）をさす it, that など：Goldwater won in the West, but it didn't happen in the East.

(3) 照応語が先行詞に対して占める相対的位置関係による，照応関係の分類。(a) 進行代名詞化（forward (s) pronominalization）。(b) 逆行代名詞化 (backward (s) pronominalization)。(c) 内向代名詞化 (inward pronominalization)。照応語の左右に先行詞が分離している場合で，左方の先行詞からは進行代名詞化，右方の先行詞からは逆行代名詞化が行なわれたと見られる：Mary's realizing that they were about to die bothered John.（2人は死ぬことになっているとメアリーにわかってしまい，ジョンは困っていた）。

照応関係は対照強勢（contrastive stress）の有無によっても左右されることがある。たとえば，John washed the car; I was afraid someone else would do it. という文において，対照強勢が else に置かれた文では，someone else は John 以外の人をさし（だれかほかの人がやったら困ると思っていたら，ジョンが車を洗ってくれた），対照強勢が afraid に置かれた文では，someone else は John その人をさす（ひとにやられると困るなと思っていたら，ジョンが車を洗ってしまった）。

照応語は，このような先行詞の探索のほかにある種の省略があるために，学習障害児などには，学習が困難になるのである。代名詞では先行詞の探索が是非とも必要であるし，「ののしりことば」や「同じように（likewise）」ほどでは省略を“復元”しなければならないのである。それらが難しいのである。

この実験の結果は一応，作業仮説が実証された。P群では十分に文脈の制約を活用していないようで今後いかに文章の制約を活用させるかが重要な問題となる。本研究に則して言えば接続詞の学習指導が大切であるが，その他に，語彙をふやし，そのつなげ方としての文法を学習し，具体的思考を抽象化してすじや主題をつかむ力をつけることが大切であろう。指導の仕方としては意味論を重視することが重要になろう。

文　献

1) 岡田　明 (1967)：読書教育の心理　協同出版.

2) 岡田　明 (1969)：言語教育の心理　新光閣.

3) 岡田　明 (1973)：最新読書の心理学　日本文化科学社.

4) 岡田　明，高橋信雄，都築繁幸，保坂真理 (1979)：聴覚障害児の読みに及ぼす文脈の影響(1)——原文と組替え文に対するクローズ反応の比較——日本心理学会43回大会論文集.

5) 岡田　明他 (1979)：聴覚障害児の読みに及ぼす文脈の影響（2）——文脈の位置によるク

ローズ反応の分析――日本特殊教育学会17回大会論文集.
6)岡田　明（1979)：クローズ法について　日本読書学会23回大会論文集.
7)岡田　明（1979)：弱視児の読みに関する実証的研究　学芸図書.
8)岡田　明他（1980)：聴覚障害児の読みに及ぼす文脈の影響　17巻，3号，1-8　特殊教育学研究.
9)岡田　明（1980)：聴覚障害児の読みに及ぼす文脈の影響（その3）　日本特殊教育学会18回大会論文集.
10)岡田　明（1980)：精薄児の読みに及ぼす文脈の影響　日本教育心理学会22回大会論文集.
11)岡田　明（1981)：聴覚障害児の読みに及ぼす文脈の影響（その2）　心身障害学研究　5巻1号，31-36.
12)岡田　明（1981)：聴覚障害児の心理と教育学芸図書.
13)岡田　明（1981)：聴覚障害児の読みに及ぼす文脈の影響（その4）　日本教育心理学会23回大会論文集.
14)岡田　明（1981)：聴覚障害児の読みに及ぼす文脈の影響（その5）　日本特殊教育学会19回大会論文集.
15)岡田　明（1982)：聴覚障害児の読みに及ぼす文脈の影響（その3）　心身障害学研究　6巻1号，49-78.
16)岡田　明，緒方佐千子（1983)：聴覚障害児の読みに及ぼす文脈の影響（その4）　心身障害学研究　7巻1号，11-19.
17)岡田　明（1984)：聴覚障害児の読みに及ぼす文脈の影響（その8）　日本特殊教育学会論文集.
18)岡田　明（1984)：聴覚障害児の読みに及ぼす文脈の影響（その5）　心身障害学研究　8巻2号　1-12.
19)安井　稔編（1982)：新言語学辞典　研究社.
20)Robinson, H. Alan（1983)：筑波大特別招聘教授としての講義録による.
21)Taylar, W, L.（1953)：Cloze Procedure：A New Tool for Measuring Readability. Journalism Quartely, 30. 415-433.

Summary

An Experimental Study of the Effect of Contextual Constraints upon the Reading by Hearing Impaired Children (6)

Akira Okada

The aim of the present study was to analyse the effect of contextual constraints upon the reading by the hearing impaired. To achieve the purpose the writer used the modification of the cloze procedure created by W. L. Taylor in which the writer constructed the problem of conjunctive. Subjects should cloze exact conjunctive after reading two sentences. One group of sentences was the sentences whithout any omission of words, while the other was of omission of words.

Subjects were 20 deaf children in junior high school level from a deaf school whose hearing loss was about 90dB and whose intelligence was normal.

Data were analysed by good-poor analysis. In good group, the achievement was different in two sentences and superior in the sentence without any omission. In poor group, the achievement was not different in two sentences.

Key word: cloze procedure, context, good-poor analysis, reading